

昔話「継子譚」論

青井 崇

昔話・民話といわれるものは、同話とみられるものでも地方によって様々なモチーフや話型があり細部に違いや変化が見られることが多い。これらは、伝播の過程で地域の特色や語り手による影響が原因と考えられる。私は、民間に伝えられているだけでなく、知識階級間でも語られることのある「継子譚」に注目し、昔話の地域性、継子譚の特色について考えてみた。

まず、私は「継子の木の実拾い」「米福糠福」「皿々山」の三つの継子譚の相互関係について考察した。

そこでは、「継子の木の実拾い」には、主題を継子の虐待におくものと勸善懲惡におくものがあり、各々別の語り手によるものと考えられ、伝播の過程に変化があったことを物語るものであった。

また、「継子の木の実拾い」「米福糠福」「皿々山」は、地域によって別々の話型が存在しており、それは互いの分布域と密接な関係を持っていた。

次に、継子譚は古典にも出典があることから、貴族ら知識階級間でも語られることがあったと分かり、出典の時代背景や当時の家族制度、話の発端となり得る世相を推測することができる。

さらに、民話と古典との比較によって、互いの継子譚に対する認識の違いを考察することができる。

その結果、古典及び貴族遊離譚の特徴として、継子の成功話、出世話があげられた。そして、継子の出世話は、古典・民話共に、いじめ・虐待↓継子の成功↓継母の没落という構成をしており、勸善懲惡の主題と共に共通するものであった。

また、継子の悲話について考察してみると、悲話は、民間説話の特徴と考えられ、貴族遊離譚の影響は受けなかったものと推測できる。

これら、悲話は主題を虐待に持つものであり、生活臭が感じられ、その発生を民間説話に求め得るものであった。そうすることで、虐待を主題とした継子譚の異形である勸善懲惡を主題とした継子譚は貴族遊離譚の影響によると判断した。

以上のことから元々は継母の虐待を描いていた継子譚も、この行為を肯定することに主題があるのではなく、全く逆のこうした行為を否定し、戒めることに主題がある。従って後に、継母の虐待を主題とした継子譚から、勸善懲惡を主題とした継子譚が一般型として語られることになったのである。